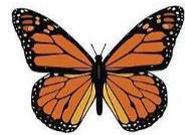




中・高校生の皆さんへ



レイチェル・カーソン日本協会 関東フォーラム

「自然を語る会」(2020.8. 8)

中・高校生の皆さん「今のとき」を、どう過ごしていらっしゃいますか。

私たちは、今、だれも経験したことのない不安な状況の中にいます。1ミリの十万分の一程度の大きさといわれる小さな小さなウイルスが、世界中の人々を恐れさせているのです。

地球という星が誕生したのは、46億年前。そして、何億年もかけて海の中にひとつの細胞が生まれ、そこからまた何億年もかけて、たくさんの“命を持つ”生きもの、植物や動物などが生まれてきました。人間もその生命の歴史の中で生まれてきた生きものの一員なのです。生きものたちは、絶妙なバランスをもって、この地球上で暮らしていました。

●地球のバランスが崩れ始めた

そのバランスをくずし始めたのは人間です。そのことにいち早く気づいて、警鐘を鳴らしたのが、アメリカの女性科学者、レイチェル・カーソンです。レイチェル・カーソンは『沈黙の春』という本の中で、化学物質をむやみに使うことが地球のバランスをくずしてしまう、と世界に警告しました。1962年、今から約60年前のことです。



しかし、政治家や実業家たちは彼女の警告から目をそらし、化学薬品をはじめ様々なもので、自然環境を変える方向へと進んでいきました。自分たち人間が「より豊かに」「より便利に」生きられるようにということだけを目指していったのです。

●コロナウイルス感染はなぜ起きたのか

チンパンジーの研究で有名なジェーン・グドールさんは、今回の新型コロナウイルス感染について、次のように言っています。

われわれが森を破壊すると、森にいるさまざまな種の動物が近接して生きていかに得なくなり、その結果、病気が動物から動物へと伝染する。そして、病気をうつされた動物が人間と密接に接触するようになり、人間に伝染する可能性が高まる。

動物たちは、食用として狩られ、アフリカの市場やアジア地域、特に中国にある野生動物の食肉市場で売られる。また、世界中にある集約農場には数十億匹の動物たちが容赦なく詰め込まれている。こうした環境で、ウイルスが種の壁を越えて動物から人間に伝染する機会が生まれるのだ。

今回の感染のきっかけは、人間たちが「開発」という名のもとに行ってきた数々のことが原因だと言っているのです。



●コロナ以外の災害もまた人間の活動が原因です

レイチェル・カーソンは『沈黙の春』の中でこうも言っています。

人間という一族が、おそるべき力を手に入れて、自然を変えようとしている。

ただ自然の秩序をかきみだすのではない、今までにない新しい力——質の違う暴力で自然が破壊されてゆく。

最近ひんぱんに起こる豪雨などの気候災害も、人間が行った「自然破壊」の結果だと、多くの科学者が指摘しています。

●今、どうすれば……

コロナウイルスで気持ちが不安定な今、空を見上げてください、木々を見てください、地面を見てください、川や海があつたら、中を覗いてみてください。小さな生きもの、大きな生きもの、様々な命を目にすることができるでしょう。

レイチェル・カーソンは『センス・オブ・ワンダー』という本の中で、自然に触れることで、さまざまなことを感じるができる、感じることの喜びと大切さを私たちに伝えていきます。こんな一節があります。

いろいろな木の芽や花の蕾、咲きほこる花、それから小さな小さな生きものたちを虫めがねで拡大すると、思いがけない美しさや複雑なつくりを発見できます。

こういったことは、経験した方も多いことでしょう。計算されたような幾何学的な模様にくわくしたこともあるかもしれません。この一節は次の言葉に続きます。

それを見ていると、いつしかわたしたちは、人間サイズの尺度の枠から解き放たれていくのです。

「人間としての目」だけでなく「もっと大きな目」で、周りを見ることができるというのです。それは、わたしたちの心を明るいほうへ向けてくれるものでもあるでしょう。

地球の美しさと神秘を感じとれる人は、科学者であろうとなかろうと、人生に飽きて疲れしたり、孤独にさいなまれることはけっしてないでしょう。たとえ生活のなかで苦しみや心配ごとにてであったとしても、かならずや、内面的な満足感と、生きていることへの新たなよろこびへ通ずる小道を見つけだすことができると信じます。

●明るい未来を

今のまま開発を続けていけば、これからもコロナのようなウイルスやその他の病原体による感染、自然の崩壊や気候の温暖化による災害などが増えていくと思われます。

そうならないように、

ひとりひとりが考えていきましょう。

そして、みんなで行動していきましょう。

私たちの明るい未来へ通ずる小道を探して。

